

船尾 章子 (FUNAO Akiko)

経歴・研究業績



1. 経歴

- | | |
|---------|---|
| 1956年 | 広島県尾道市生まれ |
| 1975年3月 | 広島県立福山誠之館高等学校卒業 |
| 1979年3月 | 早稲田大学教育学部教育学科教育心理学専修卒業 |
| 1983年3月 | 上智大学大学院法学研究科法律学専攻博士前期課程修了 |
| 1987年3月 | 同大学院法学研究科法律学専攻博士後期課程満期退学 |
| 1987年4月 | 上智大学法学部国際関係法学科助手 |
| 1988年4月 | 日本学術振興会特別研究員 |
| 1991年4月 | 中部大学国際関係学部国際関係学科助教授 |
| 1995年4月 | 龍谷大学経済学部助教授 |
| 1997年9月 | コロンボ大学大学院修士課程日本研究専攻客員教授
(国際交流基金派遣、1998年3月まで) |
| 2002年4月 | 神戸市外国語大学外国語学部国際関係学科助教授 |
| 2007年4月 | 同学部教授 |
| 2010年4月 | ブリュッセル自由大学国際法センター客員研究員
(2011年3月まで) |
| 2019年3月 | 神戸市外国語大学退職 |
| 2019年4月 | 同大学名誉教授 |

2. 研究業績

【著書】

- 1997 『国際から民際へ』（共著、一心社）
1998 『Invitation 法学入門』（共著、不磨書房）（2003年6月新版発行）
1999 『国際機構入門』（共著、国際書院）
2000 『国連による平和と安全の維持』（共著、国際書院）
2000 『転換期国際法の構造と機能』（共編著、国際書院）
2007 『国連による平和と安全の維持 第2巻』（共著、国際書院）

【学術論文】

- 1987 「国際組織の意思決定過程試論：国連宇宙空間平和利用委員会における月条約交渉過程を素材として」（単著）『国際学論集』第18号、39-64頁。
- 1987 「国際組織と日本の新たな対応」（共著）、総合研究開発機構編『1990年代日本の課題』（三省堂）所収、113-170頁。
- 1988 「宇宙資源開発と人類の共同の遺産概念：新領域開発のための法的枠組みの作成」（単著）、『上智法学論集』第31巻1・2号、131-240頁。
- 1990 “United Nations Policy to Develop an International Framework Governing the Exploitation of Natural Resources in Outer Space”, in *Proceeding of the 17th International Symposium on Space Technology and Science*, pp. 2319-2326.
- 1993 「国連行政の適正な制御に向けて：行政監査機能の展開と背景」（単著）、『国際政治』第103号、28-42頁。
- 1995 「大正期日本の国際連盟観：パリ講和会議における人種平等提案の形成過程が示唆するもの」（単著）、『国際関係学部紀要』第14号、21-38頁。
- 1997 「ナショナリティからエスニシティへ」（単著）、『龍谷大学経済学論集（民際学特集）』第37巻2号、83-96頁。
- 1999 「スリランカ：文化的多元社会における国内人権委員会の課題」（単著）、『部落解放研究』第131号、15-27頁。
- 2000 「ダキニ天のゆくえ：稲荷信仰における外来神の消息」（単著）、『龍谷大学経済学論集（民際学特集）』第39巻4号、59-85頁。
- 2000 「国際連盟構想の起源とその展開」（単著）、桐山・杉島・船尾編『転換期国際法の構造と機能』（国際書院）所収、87-134頁。

- 2002 「国内避難民に対する人道援助活動の実施状況と課題：スリランカの NGO と国際人道機構の提携を中心に」（単著）、『龍谷大学経済学論集』第 41 巻 5 号、67-93 頁。
- 2003 「非国家武装組織による毒性化学物質の保有と使用：タミル・イーラム解放の虎の場合」（単著）、杉島正秋編『バイオテロの包括的研究』（朝日大学法制研究所）所収、132-159 頁。
- 2004 「気候変動資金メカニズムの基盤と展開：多国間環境条約に基づく発展途上国支援の制度化へ向けて」（単著）、『龍谷大学経済学論集』第 44 巻 3 号、19-47 頁。
- 2005 「気候変動資金メカニズムの課題：発展途上国における緩和と適応に向けて」（単著）、田中・増田編『地球温暖化防止の課題と展望』（法律文化社）所収、126-152 頁。
- 2006 「多国間主義にもとづく領土保全の保証：国際連盟規約第 10 条の教訓」（単著）、『神戸市外国語大学外国学研究』第 63 号、5-40 頁。
- 2008 「国際難民機構の出現と変遷 1921-1950：黎明期における多国間協力の試行過程」（単著）、『神戸外大論叢』第 59 巻 5 号、77-101 頁。
- 2011 「難民の国際的保護の創始およびその展開 1921-1951」（単著）、秋月・中谷・西海編『人類の道しるべとしての国際法』（国際書院）所収、339-366 頁。
- 2015 「ナンセン旅券制度の構築過程における国際連盟難民高等弁務官の機能（1）」（単著）、『神戸外大論叢』第 65 巻 4 号、89-105 頁。
- 2018 「戦間期における多国間主義にもとづく平和と安全の探求：ブリアンの構想と実践を中心に」（単著）、『神戸外大論叢』第 68 巻 2 号、1-22 頁。
- 2018 「政府間協議体から立憲的組織体への創造的展開：往復書簡からたどるハマースホルドの思索」（単著）、『神戸外大論叢』第 69 巻 2 号、47-63 頁。

【その他】

- 1994 「国連によるエスニック紛争の解決過程における非国家紛争当事者の処遇：東地中海の事例から、キプロスを中心に」国際法学会第 97 年次秋季大会研究報告（東京）。
- 1995 「国連の仕組みを問い直す」（新刊ガイド）（単著）、『法学セミナー』第 481 号、116 頁。
- 1995 「米をめぐる東地中海紀行」（米の食べ方の世界誌）（単著）、『国際研究』第 11 号、221-222 頁。

- 1998 「国際連合」の項（共著）、上智学院新カトリック大事典編纂委員会 編『新カトリック大事典第2巻』（研究社）所収。
- 1998 “Japan’s Foreign Aid Policy: Past and Present”, at Annual Seminar organized by Japanese Graduates’ Alumni Association of Sri Lanka (Colombo) .
- 1999 “Challenges to Japan’s Foreign Policy towards South Asia: Agenda for Peace and Stability”, at Seminar on Japan in South Asia (Colombo) .
- 2000 「学生の主体的参加を促進する講義形態の開発」（単著）、『FD・教材等研究開発報告書』第2号（龍谷大学）、184-204頁。
- 2004 「侵略に対する領土保全の保証から戦争の禁止へ：20世紀国際秩序形成期における集団安全保障の制度設計」、2004年度国際政治学会研究大会部会報告（兵庫）。
- 2005 「月協定」、「南アジア地域協力連合」の項（単著）、国際法学会編『国際関係法辞典』第2版（三省堂）所収。